

関東の私鉄の歴史(4) 京浜急行電鉄株式会社・相模鉄道株式会社

柿原 智

(1)

| 年代 | 京浜急行電鉄 | 相模鉄道 | | | |
|---|--|---|--|--|--|
| <p>明治32年(1899)</p> <p>明治34年(1901)</p> <p>明治35年(1902)</p> <p>明治37年(1904)</p> <p>明治38年(1905)</p> | <p>1月、前年設立の「大師電気鉄道」が六郷橋～大師間営業開始。六郷橋駅は、京急川崎駅と港町間にあったが後廃止される。</p> <p>4月、社名を「京浜電気鉄道」と変更。</p> <p>2月、大森駅停車場前(現 JR 大森駅の場所)～八幡(現大森海岸)～六郷橋間開業。</p> <p>6月、蒲田(現京急蒲田)～穴守間開業、(穴守線、現空港線)。</p> <p>9月、六郷橋～川崎(現京急川崎)間開業、(大師線)。</p> <p>5月、品川(現北品川)～八幡間開業。</p> <p>12月、品川(現北品川)～神奈川間開業。</p> | <p>(神中鉄道)、(相模鉄道)、(JR 相模線)</p> <p>「神中鉄道」、現在横浜～海老名間をはしる相模鉄道本線は、かつて神中鉄道運営の「神中線」と呼ばれていた。</p> <p>一方、現在 JR 相模線(通称ガミ線)の路線、茅ヶ崎～橋本はかつて私鉄相模鉄道が運営していた。</p> <p>神中鉄道(現相模鉄道)、相模鉄道(現 JR 相模線)共に相模川の砂利採掘が主目的だった。</p> | | | |
| <p>大正2年(1913)</p> <p>大正3年(1914)</p> <p>大正4年(1915)</p> <p>大正10年(1921)</p> <p>大正14年(1925)</p> <p>大正15年(1926)</p> | <p>(穴守線)12月、穴守駅を0.8km延伸。</p> <p>(穴守線)1月、旧穴守駅の位置に羽田駅を新設。</p> <p>1月、羽田駅を穴守方へ移設、稲荷橋駅に改称。</p> <p>3月、高輪～北品川間開業。</p> | <p>(相模鉄道)</p> <p>9月、茅ヶ崎～寒川間開業。</p> <p>7月、茅ヶ崎～厚木間開業。</p> | <p>(神中鉄道)</p> <p>5月、厚木～二俣川開業。</p> <p>12月、星川(現上星川)迄延伸。</p> | | |
| <p>昭和2年(1927)</p> <p>昭和4年(1929)</p> <p>昭和5年(1930)</p> <p>昭和6年(1921)</p> <p>昭和8年(1933)</p> <p>昭和11年(1936)</p> | <p>* 後に「京浜電気鉄道」と合併する、「湘南電気鉄道」が共に工事を進行させる。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(京浜電気鉄道)</p> <p>2月、高輪～横浜間開通。</p> <p>12月、横浜～日ノ出町間開通。</p> <p>12月26日、横浜～浦賀間で相互直通運転開始。</p> <p>4月、高輪駅廃止、品川駅に乗り入れ、全線標準軌道に改軌して、品川～浦賀間の直通運転開始。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(湘南電気鉄道)</p> <p>4月、浦賀～黄金町(逗子線)金沢八景～湘南逗子間開業。</p> <p>12月、黄金町～日ノ出町間開通。</p> </td> </tr> </table> | <p>(京浜電気鉄道)</p> <p>2月、高輪～横浜間開通。</p> <p>12月、横浜～日ノ出町間開通。</p> <p>12月26日、横浜～浦賀間で相互直通運転開始。</p> <p>4月、高輪駅廃止、品川駅に乗り入れ、全線標準軌道に改軌して、品川～浦賀間の直通運転開始。</p> | <p>(湘南電気鉄道)</p> <p>4月、浦賀～黄金町(逗子線)金沢八景～湘南逗子間開業。</p> <p>12月、黄金町～日ノ出町間開通。</p> | <p>5月、北程ヶ谷(現星川)まで延伸。</p> <p>2月、西横浜まで延伸。</p> <p>12月、ついに横浜乗入れ、厚木～横浜全通。</p> <p>1月、中央本線の八王</p> | |
| <p>(京浜電気鉄道)</p> <p>2月、高輪～横浜間開通。</p> <p>12月、横浜～日ノ出町間開通。</p> <p>12月26日、横浜～浦賀間で相互直通運転開始。</p> <p>4月、高輪駅廃止、品川駅に乗り入れ、全線標準軌道に改軌して、品川～浦賀間の直通運転開始。</p> | <p>(湘南電気鉄道)</p> <p>4月、浦賀～黄金町(逗子線)金沢八景～湘南逗子間開業。</p> <p>12月、黄金町～日ノ出町間開通。</p> | | | | |

| | | | |
|-------------|-------------------|-----------------------|--|
| 昭和12年(1937) | 3月、大森停車場前～大森海岸廃止。 | 子まで、横浜線の路線で直通列車を走らせた。 | |
|-------------|-------------------|-----------------------|--|

(2)

| 年代 | 京浜急行電鉄 | 相模鉄道 | |
|-------------|--|---|--|
| | | (相模鉄道) | (神中鉄道) |
| 昭和14年(1939) | | | 9月、赤字のため東京横浜電鉄の傘下に入り再建をはかることに。 |
| 昭和16年(1941) | 11月京浜電気鉄道と湘南電気鉄道、湘南半島自動車が合併、「京浜電気鉄道」になる。 | | 11月相模国分～海老名間開業。相模国分～厚木間の旅客運転停止に。海老名～横浜間開通。 |
| 昭和17年(1942) | 5月1日、京浜電気鉄道は、小田原急行電鉄と共に東京横浜電鉄に合併される。 東京急行電鉄発足。(大東急の時代) 12月、久里浜線、横須賀堀之内～久里浜間開通。 | | |
| 昭和18年(1943) | | 4月、合理化のため相模鉄道が神中鉄道を吸収合併。「相模鉄道相模線」と「相模鉄道神中線」となる。 | |
| 昭和19年(1944) | | 6月、軍事的な理由で、旧相模鉄道部分(茅ヶ崎～橋本)が国有化されるが、旧神中線部分(横浜～海老名)はそのまま相模鉄道としての名を受け継ぐ。なお、国有化された路線は現在 JR 相模線となっている。 | |
| 昭和20年(1945) | 大師線が桜本まで延伸。 | | |
| 昭和22年(1947) | | 6月、戦後の初代社長川又貞次郎は東急が持っていた株を買取、独立体制に。 | |
| 昭和23年(1948) | 6月1日、東急から分離、京浜急行電鉄に。 | | |
| 昭和27年(1952) | 1月大師線のうち塩浜～桜本を川崎交通部(現交通局)に譲渡。大師線は現在の「京急川崎～小島新田」となる。 | 米企業より横浜駅西口の土地24,688㎡取得。この土地の開発と売り出しにより、相鉄の経営基盤は安定化。 | |
| 昭和31年(1956) | 4月、(穴守線)稲荷橋駅を穴守稲荷駅に名称変更。穴守稲荷～羽田空港(初代)を延伸。 | | |
| 昭和38年(1963) | 11月、穴守線を空港線に改称。 | | |
| 昭和41年(1966) | (久里浜線)3月、津久井浜まで、7月、三浦海岸まで開通。 | | |

| | | |
|-------------|--|-----------------------|
| 昭和43年(1968) | 6月、品川～泉岳寺間開業。昭和35年(1960)押上～浅草橋間開通した地下鉄都営浅草線が、6月泉岳寺まで到達。京浜急行電鉄と都営浅草線との相互直通運転開始。 | |
| 昭和50年(1975) | 4月、久里浜線三崎口迄開通。堀ノ内～三崎口間全通。 | |
| 昭和51年(1976) | | 4月、いずみ野線、二俣川～いずみ野間開業。 |

(3)

| 年代 | 京浜急行電鉄 | 相模鉄道 |
|-------------|---|---|
| 昭和60年(1985) | 3月、逗子線、京浜逗子、逗子海岸両駅を統合し、新たに新逗子駅を開業。 | |
| 昭和62年(1987) | 6月、「京浜～」と名の付く10駅を「京急～」に改称。 | |
| 平成2年(1990) | | 4月、いずみ野線、いずみ野～いずみ中央間開業。 |
| 平成3年(1991) | (空港線)、1月、工事のため穴守稲荷～(旧)羽田空港間休止。 | |
| 平成5年(1993) | (空港線)、4月、工事竣工で穴守稲荷～羽田(現天空橋)間開業。 9月、羽田空港新ターミナル開業に伴い、羽田(現天空橋)駅で、東京モノレールと接続。 | |
| 平成9年(1997) | (空港線)、10月、本線及び都営浅草線へ直通する特急列車の運行開始。 | |
| 平成10年(1998) | (空港線)、11月、羽田～羽田空港(二代目、現羽田空港国内線ターミナル)間開業。 羽田駅を天空橋駅に改称。 | |
| 平成11年(1999) | 3月、本線横浜方面から早朝に空港線へ直通列車運行。 | 3月、(いずみ野線)いずみ中央～湘南台開業、二俣川～湘南台全通。 |
| 平成14年(2003) | 10月、蒲田駅改良により、空港線と本線横浜方面との直通運転が終日運転となる。 | |
| 平成21年(2009) | | 9月、持ち株会社相鉄ホールディングスに商号変更した際、相模鉄道の完全子会社「大関」の商号を「相模鉄道株式会社」に変更させ、鉄道事業を継承させることにした。 |
| 平成22年(2010) | 7月、京成電鉄が、北総線経由で成田空港と結ぶ「京成成田空港線(成田スカイアクセス)開業に伴い、京浜急行は同線との直通運転開始。 10月、羽田空港新国際線ターミナル駅開業に伴い、天空橋～羽田空港間に「羽田空港国際線 | |

ターミナル駅」開業。
また羽田空港駅を「羽田空港国内線ターミナル
駅」に改称。

{最近の時刻表より}

* 京急と都営浅草線、京成線、北総線との直通運
転状況

- 三崎口～青砥
- 三崎口～印旛日本医大
- 三崎口～京成成田

羽田空港国内線ターミナル(略して羽田空港)
発着の列車では

- 羽田空港～京成成田
- 羽田空港～印旛日本医大
- 羽田空港～印西牧の原
- 羽田空港～京成高砂

間の直通運転が多い。

以上